学校番号	3032B

令和８年度　地理歴史科

教科	地理歴史	科目	日本史探究	単位数	３単位	年次	３年次
使用教科書	詳説日本史「日本史探究」　（山川出版）						
副教材等	新詳日本史（浜島書店）・日本史重要語句チェックリスト（啓隆社） ウィニングコンパス（とうほう）						

1　担当者からのメッセージ（学習方法等）

日本史を通史で学習していきます。２年次に学習した日本史探究の続きの内容になります。史料や図録も参考にしながら、古代からの日本の歴史上の出来事や制度について理解し、考察できるようになりましょう。入試対応の科目となり、深い内容になりますので、授業プリント等を活用し、復習しながら学習を進めてください。なお、小テストや問題演習も適宜おこないます。

2　学習の到達目標

・中世から近代にかけての日本の歴史に関する出来事の流れや事象・用語を理解する。
・資料や図・写真等を読み取ることや、情報を自分なりに考察してまとめ、表現できる力を身に着ける。
・自分自身や身近な出来事と歴史的な出来事に関してのつながりを考え、歴史的な思考力を養う。
・日本史探究での学習内容を踏まえ、習得した知識や考えたことを活用し、自身の学校生活・進路選択や今後に生かそうとする。

3　評価の観点及びその趣旨

観点	a:知識・技能	b:思考・判断・表現	c:主体的に学習に取り組む態度
観点の趣旨	我が国の歴史の展開に関わる諸事象について，地理的条件や世界の歴史と関連づけながら総合的にとらえて理解しているとともに、諸資料から我が国の歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身につけるようにする。	我が国の歴史の展開に関わる事象の意味や意義、伝統と文化の特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現在とのつながりなどに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、歴史にみられる課題を把握し解決を視野に入れて構想したり、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらをもとに議論したりする力を養う。	我が国の歴史の展開に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に探究しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

4　学習の活動

学期	単元名	学習内容	単元(題材)の評価規準	評価方法		
				知(a)	思(b)	主(c)
前期	中世	①院政のはじまり ②院政と平氏政権 ③鎌倉幕府の成立 ④武士の社会 ⑤モンゴル襲来と幕府の衰退 ⑥鎌倉文化	a: 貴族政治や土地制度の変容などをもとに、諸資料から得られる情報を適切かつ効果的に調べてまとめ、古代から中世の国家・社会の変容理解している。 b: 幕府と朝廷の二元的支配構造の特色について、諸資料から得られた情報をもとに、根拠を明確にしながら考察し、表現している。 c: 宋・元などユーラシアとの交流と経済や文化への影響について、主体的に追究しようとしている。鎌倉時代の宗教や文化にみられる平安時代からの特徴の継承や差異について、主体的に追究しようとしている。	定期考査 小テスト	定期考査 ワークシート	学習状況の観察
	中世	①室町幕府の成立 ②幕府の衰退と庶民の台頭 ③室町文化 ④戦国大名の登場	a: 鎌倉幕府滅亡後の政治権力の推移と武家の関係、日明貿易の展開と琉球王国の成立などについて、諸資料から情報を収集しながら理解している。 b: 自治的な村の単位や一揆の組織が成立した要因と背景について、地理的な条件や流通など経済活動との関わりを多面的・多角的について考察し、表現している。 c: 武家政権の変容や東アジアの国際情勢の変化などに着目し、諸資料を活用して前後の時代とのつながりを見出そうとしている。室町時代の宗教や文化の特徴について、鎌倉時代との比較を通じて類似点や差異を見出そうとしている。を明らかにしようとしている。	定期考査 小テスト	定期考査 ワークシート	学習状況の観察

	近世	①近世の幕開け ②幕藩体制の成立と展開 ③幕藩体制の動揺	a: 村落や都市の支配の変化、アジア各地やヨーロッパ諸国との交流に関する諸資料から情報を読み取り、織豊政権の特色や貿易・対外関係について理解している。織豊政権との類似と相違、アジアの国際情勢の変化などに着目して、諸資料をもとに江戸幕府の法や制度の確立や対外政策の推移について理解している。 b: 豊臣政権による朝鮮出兵やヨーロッパ勢力との接触による南蛮文化の形成について、多面的・多角的に考察し、表現している。表現している。幕藩体制の動揺と文化の展開との関連性について、諸資料から読み取れる情報をもとに多面的・多角的に考察し、表現している。 c: 飢饉や一揆への対応、外交政策の転換などについて、幕府や諸藩の課題を見出し、主体的に追究しようとしている。幕藩体制下の社会・経済の仕組みの変化や、幕府・諸藩の政策の変化について課題を見出し、主体的に追究しようとしている。	定期考査 小テスト	定期考査 ワークシート	学習状況の観察

後期	近代・現代Ⅰ	①近世から近代へ ②近代国家の成立 ③近代国家の展開 ④近代の産業と生活	a: 欧米諸国の進出によるアジア諸国の変化について諸資料から適切に情報を読み取り、江戸幕府が対外政策を転換して開国に至る経緯などを理解している。明治政府による中央集権化の諸政策と士族反乱の終焉、欧米・アジア諸地域との国際関係、文明開化の風潮について、諸資料から情報を読み取って理解している。 b: 日本がどのような契機によって近代的な社会の形成に向かっていくことになるのか、近代の特色を探究するための時代を通観する問いを表現している。大戦中の日本の動向を踏まえ、中国や朝鮮をはじめとするアジア近隣諸国民が日本の対外姿勢をどのように受け止めたのかを多面的・多角的に考察し、表現している。 c: 対外戦争がもたらした国内的・国際的な変化を踏まえて学習を振り返るとともに、次の学習へのつながりを見出そうとしている。マスメディアや出版の発達によって誕生した大衆社会が生み出す課題について、自ら主体的に追究しようとしている。	定期考査 小テスト	定期考査 ワークシート	学習状況の観察

	近代・現代Ⅱ	①恐慌と第二次世界大戦 ②占領下の日本 ③高度成長の時代 ④激動する世界と日本	a: 国際社会やアジア近隣諸国との関係に着目して、日本で連続した恐慌と政府の対応などに関わる諸資料から情報を読み取り、恐慌と国際関係について理解する。戦争の推移と国民生活への影響などに着目して、戦争の長期化と欧米諸国との外交関係に関わる諸資料から情報を読み取り、戦時体制の強化と第二次世界大戦の展開について理解している。 b: 戦争がアメリカやイギリスなどとの戦争に拡大した理由や、日本における全体主義的な国家体制の進展について多面的・多角的に考察し、根拠を示して表現している。戦後の諸改革が連合国の対日占領政策にもとづくとともに、戦争に対する日本国民の反省に支えられつつ実施されたことについて、多面的・多角的に考察し、表現している。 c: 第二次世界大戦後の日本の国際社会における様々な取り組みについて、課題を主体的に追究しようとしている。冷戦終結後の国際社会において日本がどのような役割を果たしてきたのか、自ら課題を見出して主体的に追究しようとしている。	定期考査 小テスト	定期考査 ワークシート	学習状況の観察

※　表中の観点について　a:知識・技能　b:思考・判断・表現　c:主体的に学習に取り組む態度